

平成28年12月議会  
第4委員会報告資料

自動車専用道路の検討について

- ・福岡空港関連 自動車専用道路
- ・西九州自動車道と西部地域とのアクセス強化

平成28年12月20日

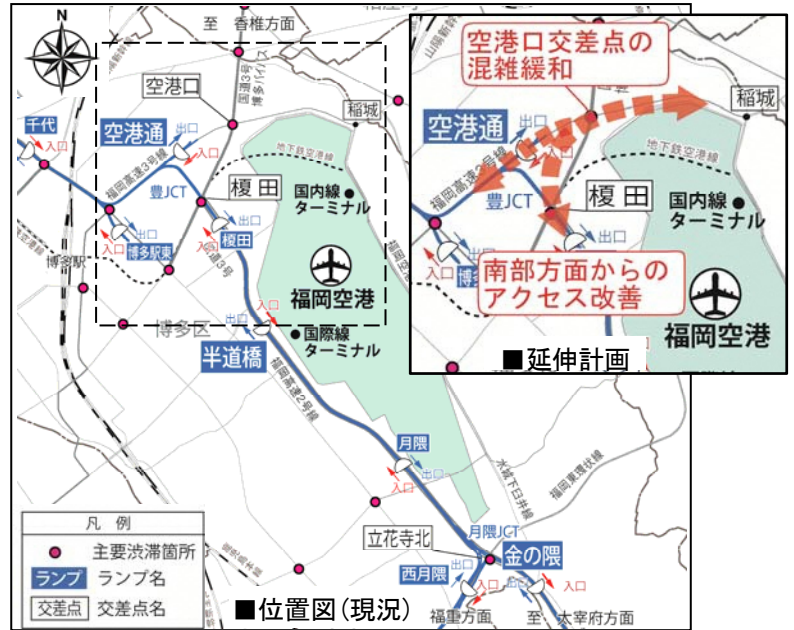
住 宅 都 市 局



# 福岡空港関連 自動車専用道路

## 1. 経緯・背景

福岡空港関連自動車専用道路については、「福岡市都市交通基本計画」における位置づけ並びに福岡市、福岡県及び福岡北九州高速道路公社の合意を踏まえ、福岡市南部地域や太宰府インターチェンジ方面からの国内線旅客ターミナルへのアクセス改善と国道3号空港口交差点の混雑緩和を目的として、平成27年度より、右図赤矢印のような都市高速道路の延伸計画の検討を進めている。



【福岡市、福岡県及び福岡北九州高速道路公社の合意内容（抜粋）（平成27年3月）】

- ①滑走路増設に合せ早期に取り組む
- ②平成27年度から都市計画法及び環境影響評価法に基づく手続きに着手する。  
また、平成27年度内の福岡市道認定を目指して取り組む
- ③平成27年度中に公社の基本計画の変更を目指して取り組む

主要渋滞箇所：  
福岡県交通渋滞対策協議会で選定された交通渋滞が発生しやすい箇所  
（平成25年1月公表）

## 2. 検討状況

平成27年度は、環境影響評価法に基づき、配慮書手続を行った。

概略計画（ルート）については、高架案、トンネル案、迂回案の比較評価、市民意見、第三者委員会、配慮書の大臣意見等を総合的に判断し、トンネル案（概算建設費500億円程度）を基本に検討を進めていくこととした。

平成28年度は、環境影響評価方法書手続を行うとともに、概略設計を進めている。

第三者委員会：学識経験者5名



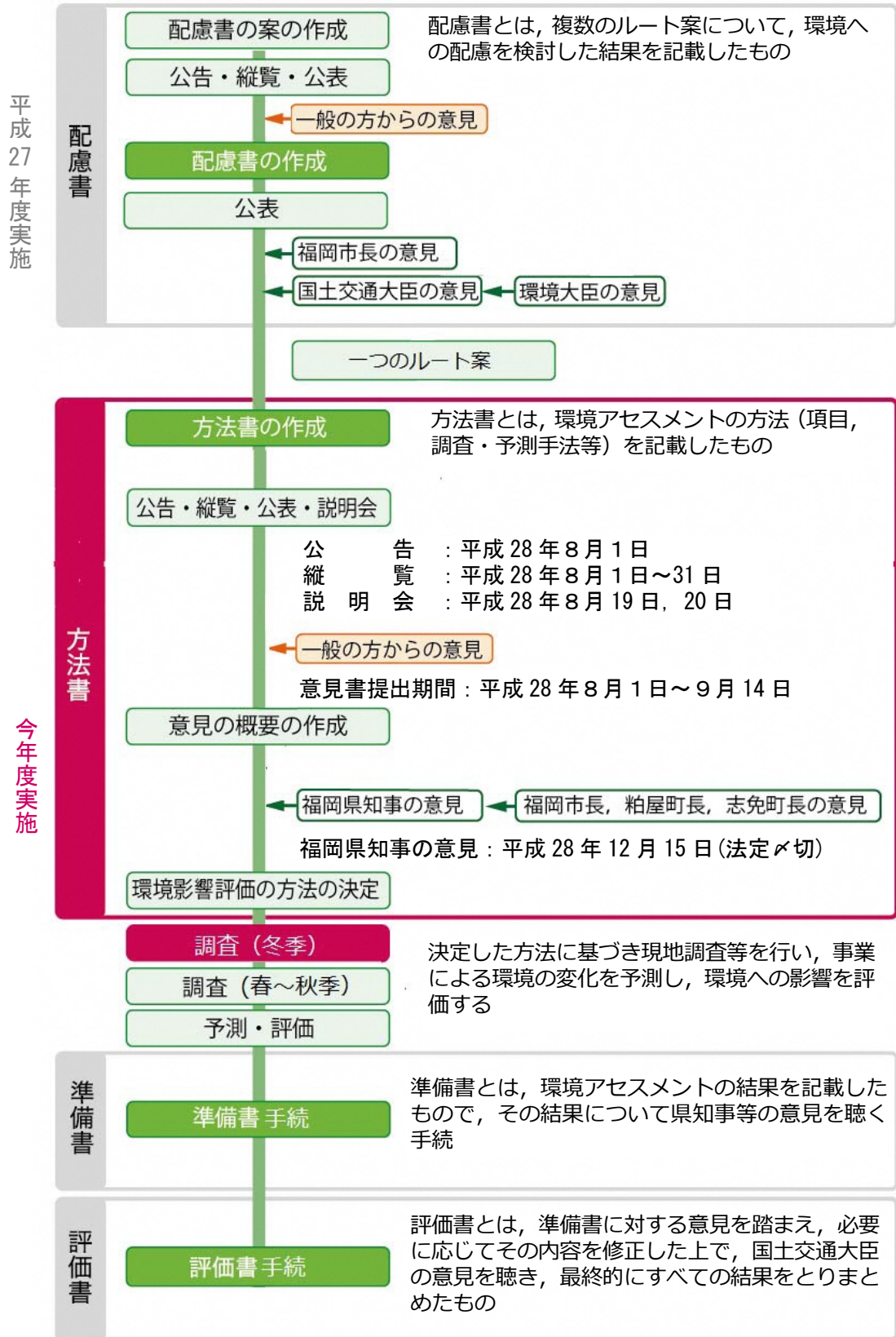
## 計画検討想定スケジュール

現時点（12月議会報告）

		H27年度	H28年度	H29年度～
自動車専用道路 福岡空港関連	環境影響評価手続	<b>配慮書手続</b> 公表・縦覧等 市民等の意見 市長の意見 国交大臣意見	<b>方法書手続</b> 方法書作成 公告・縦覧 説明会 住民等の意見 県知事の意見	現地調査 環境影響評価手続
	都市計画手続等	概略計画 第三者委員会 住民等の意見	概略設計 線形・構造 等の検討	都市計画手続等

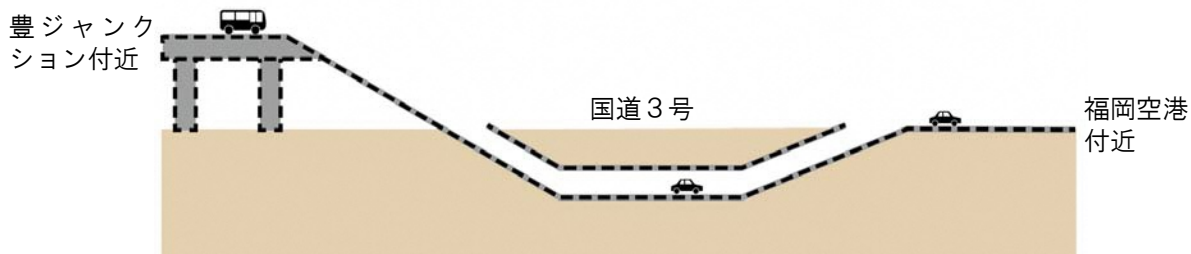
### 3. 環境影響評価方法書手続について

環境影響評価方法書（以下、「方法書」）とは、環境影響評価（環境アセスメント）の項目、調査や予測の方法などを記載したものである。方法書は縦覧するとともに、説明会などを行うほか、福岡県知事より意見が述べられる。これらの手続を行った上でその内容を決定し、これに従って現地における調査などを実施する。



(1) 方法書の作成（環境アセスメントの項目の選定等）

配慮書に対する国土交通大臣の意見などを踏まえ、当該事業の道路構造として、豊ジャンクションとの接続部分で想定している高架橋（嵩上式）、国道3号の前後区間で想定しているトンネル（地下式）などの存在や自動車の走行、また、工事における建設機械の稼働などにより影響を受けるおそれのある項目を選定するとともに、それぞれの項目についての調査、予測及び評価の手法を選定した。



道路構造のイメージ

【配慮書に対する国土交通大臣の主な意見】

- ・トンネル案を採用する場合は、詳細なルート・構造の検討にあたり、地下水環境への影響に配慮すること
- ・騒音影響について適切に調査・予測・評価を行い、当該地域の騒音を効果的に低減できる環境保全措置を検討すること

など

表 環境アセスメントの項目

影響要素の区分		工事の実施					土地又は工作物の存在及び供用			
		建設機械の稼働	に資材及び車両の運搬	既存土等物の除去	切土工事又は	設置工事施工ヤードの	掘削式（地表式）の存在又は	道路（嵩上式）の存在	道路（地下式）の存在	自動車の走行
大気質	二酸化窒素									○
	浮遊粒子状物質	○	○							○
	粉じん等	○	○							
騒音	騒音	○	○							○
	超低周波音									○
振動	振動	○	○							○
水質	水の濁り			○						
地盤	地下水環境			○		○		○		
日照阻害							○			
動物				○	○	○	○	○	○	
植物				○	○	○	○	○	○	
生態系				○	○	○	○	○	○	
景観							○	○		
人と自然との触れ合いの活動の場							○	○		
廃棄物等				○						

【人と自然との触れ合いの活動の場】

自然の豊かな地域、あるいは街の中の街路樹の緑や水辺地の自然が目に入ってやすらぎを覚えたりすることなどが出来る場所

## (2) 方法書に対する意見等

説明会	<p>開催日：平成28年8月19日、20日</p> <p>参加者数：29名</p> <p>質問等：動物、植物、生態系を選定した理由 建設機械の稼働に係る騒音の評価の手法 など</p>
意見書	<p>期間：平成28年8月1日～9月14日</p> <p>意見数：10件（2通）</p> <p>意見：工事中及び供用後の温室効果ガスの発生量 工事中や供用時の騒音について など</p>
福岡県知事の意見	<p>通知日：平成28年12月8日</p> <p>意見：・騒音について、必要に応じ高さ方向にも留意すること</p> <p>・工事に伴う地下水位等への影響について、適切に予測等を行うこと</p> <p>・動植物・生態系については、詳細に調査するとともに、必要に応じて調査範囲を拡大すること</p> <p>・身近な景観に対する観点を含めること</p> <p>・工事の実施に伴い、温室効果ガスの排出が考えられるため、その削減に取り組むこと など</p> <p>※参考 福岡県知事が、福岡市長、粕屋町長、志免町長の意見を聴き、これを勘案し、一般の意見に配慮して、意見を述べる</p> <p>粕屋町長（平成28年10月19日 意見なし）</p> <p>志免町長（平成28年10月6日 意見なし）</p> <p>福岡市長（平成28年11月10日）</p> <p>・工事に伴う地下水位等への影響について、適切に予測等を行うこと</p> <p>・温室効果ガスの発生を考慮し、削減に努めること など</p>

## 4. 今後の進め方

平成36年度末に予定されている福岡空港の滑走路増設に合わせた当該道路の供用を目指し、都市計画及び環境影響評価の進め方を進める。

### (1) 環境アセスメントについて

当該方法書の縦覧などにより、一般の方や関係する地方公共団体の長からの意見を踏まえ、環境アセスメントの項目については、当初の計画のとおりとする。

決定した環境アセスメントの項目のうち、冬季に実施することとしていた水質、日照障害、動物、景観については、平成29年1月より、現地調査に着手する。

なお、方法書に対する意見書や福岡県知事の意見などを踏まえ、予測手法等を検討しながら、今後の環境アセスメントを進めていくとともに、意見等への対応については準備書に記載する。

### (2) 都市計画手続について

「トンネル案」に関して、平成28年度より地質などの調査を行いながら、道路の線形や高架橋・トンネル部の構造等について、関係者と協議し概略設計を進めていく。

これらを踏まえ、平成29年度にかけて、都市計画の素案を作成するとともに、概算建設費を精査し、トンネル部の浸水対策、将来交通量、事業効果等について検討を行う。

# 西九州自動車道と西部地域とのアクセス強化

## 1. 目的

### (1) 学術研究都市の形成

九州大学学術研究都市は、平成30年度に九州大学の移転完了を控え、まちづくりの進展や学術的な拠点性の高まり、さらに研究開発機能の集積などにより、都市の成長を牽引する重要な役割を担っている。本市の重点事業であるMICE機能の強化を推進していく上で、平成26年度に市内で開催された国際会議336件のうち、九州大学での開催が144件（うち約半数が伊都キャンパス）にのぼるなど、主要な拠点のひとつとなっている。

### (2) 地域の交通課題への対応

国道202号の主要渋滞箇所（今宿大塚、今宿交差点）を中心に交通渋滞が見受けられるため、西区西部地域の交通ネットワークの充実・強化を図っていく。

## 2. 経緯

平成26年12月に西区西部6校区自治協議会より国道202号等の交通渋滞の解決策として「西九州自動車道周船寺インターのフルインター化」について請願がなされ、平成27年2月の市議会において採択されたところである。

また、平成27年5月には、九州大学より「西九州自動車道・周船寺インターのフルインター化」について、市に要望書が提出された。

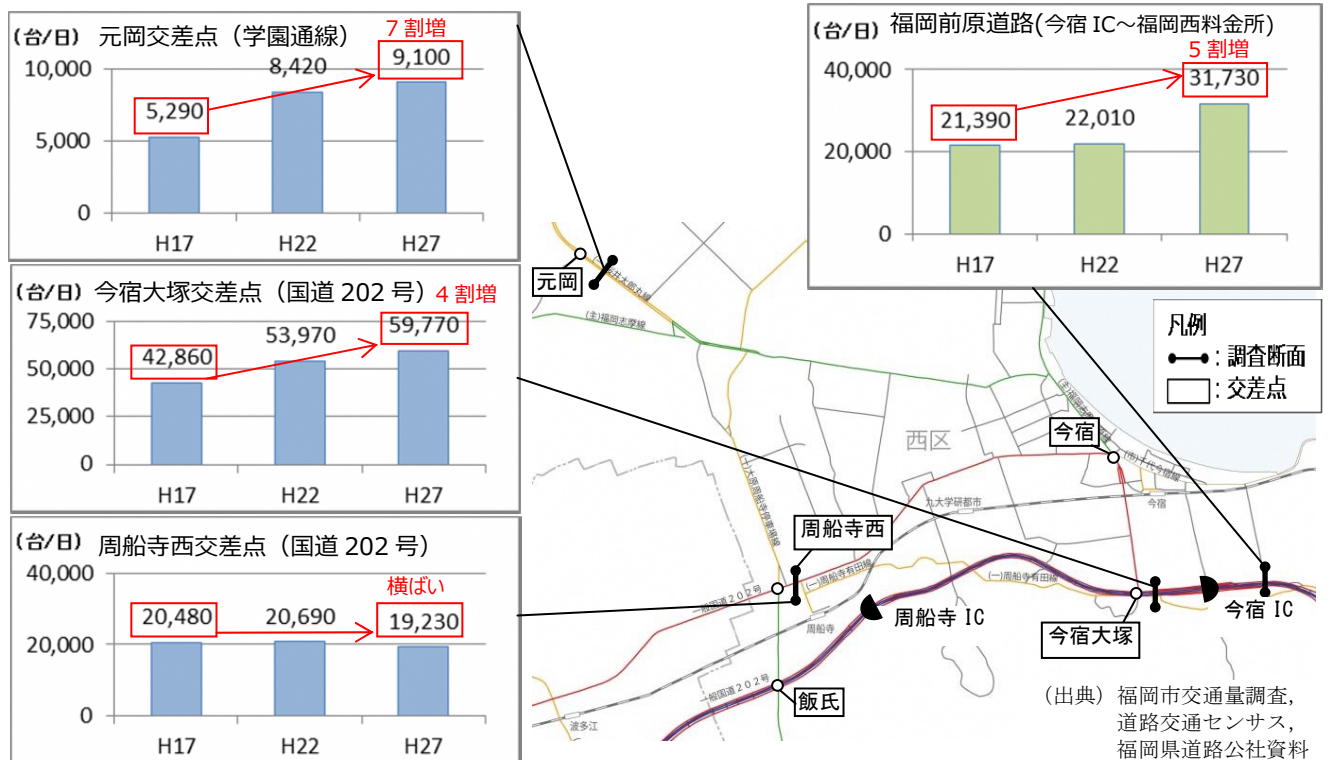


■位置図

### 3. 検討状況

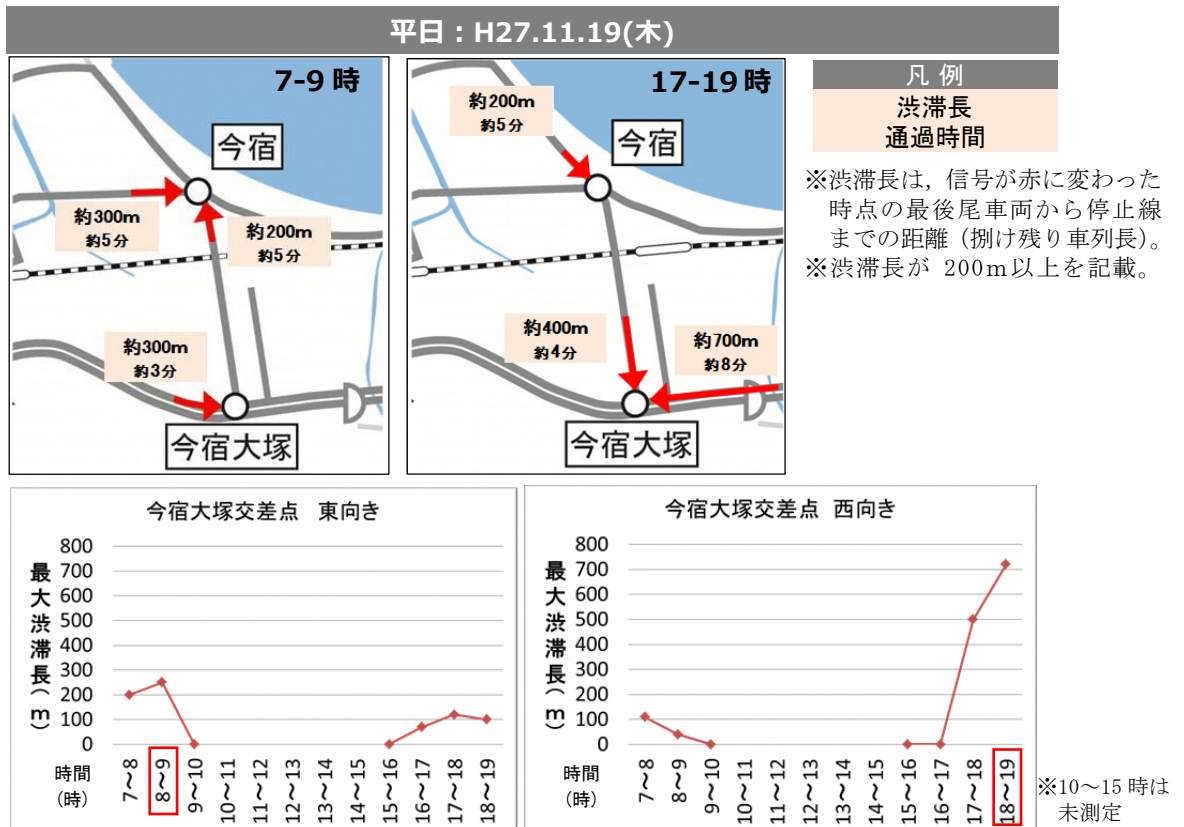
#### (1) 幹線道路の交通状況

平日の交通量の推移については、平成17年と平成27年を比較すると、元岡交差点は約7割増、今宿大塚交差点は約4割増加しており、周船寺西交差点は横ばいである。また、福岡前原道路では約5割増加している。



■ 平日の交通量の推移

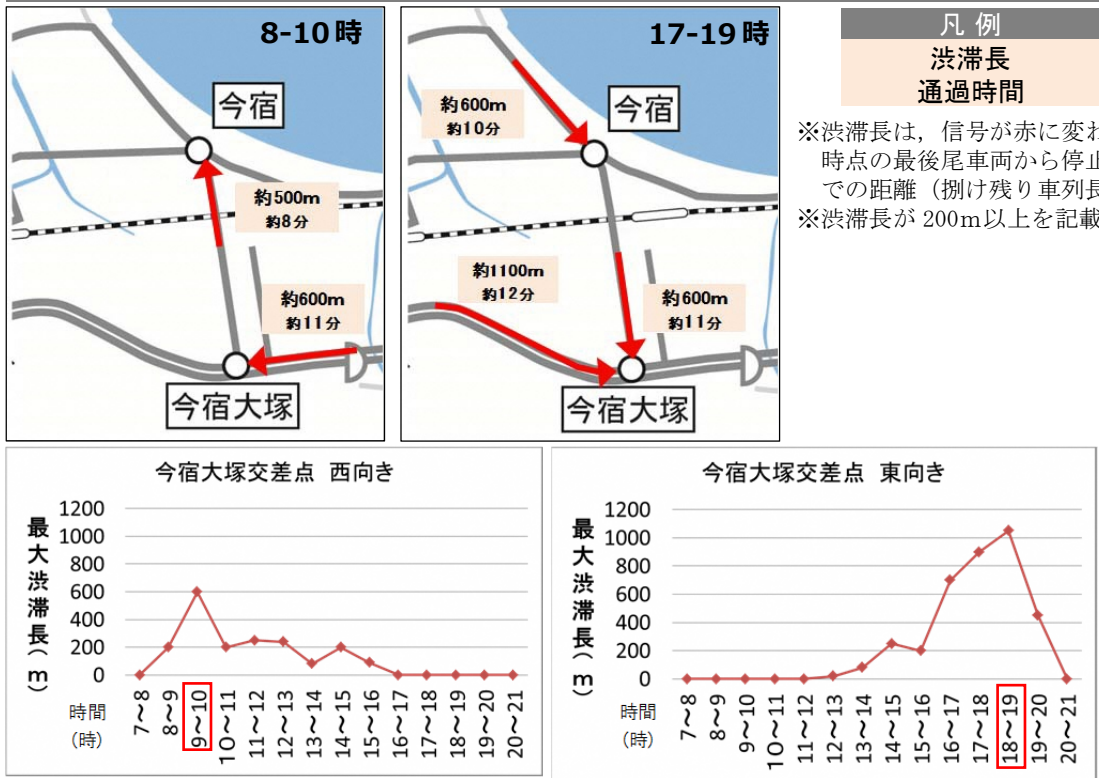
主要渋滞箇所である今宿交差点、今宿大塚交差点において、平常時である秋季平日、年間のピーク時と思われる夏季休日の渋滞状況を調査した。



■ 平日の渋滞状況

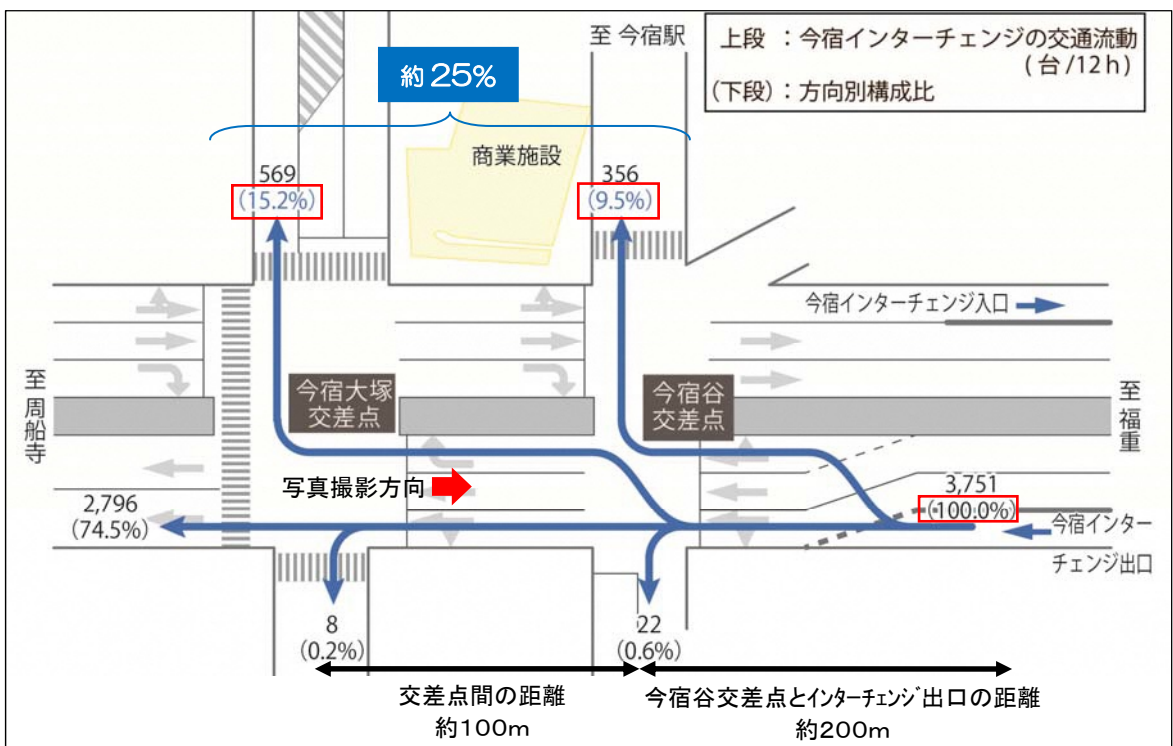


休日：H27.8.2(日)



■ 休日の渋滞状況

今宿大塚交差点の渋滞は、今宿インターチェンジから出た車両が、今宿谷交差点や今宿大塚交差点で右折するための車線変更によって、交通の輻輳を起こしていることが要因と見られる（出口から交差点までの約200~300mの区間でインターから出た車両のうち、約25%の車両が2車線を跨ぎ右折している）。



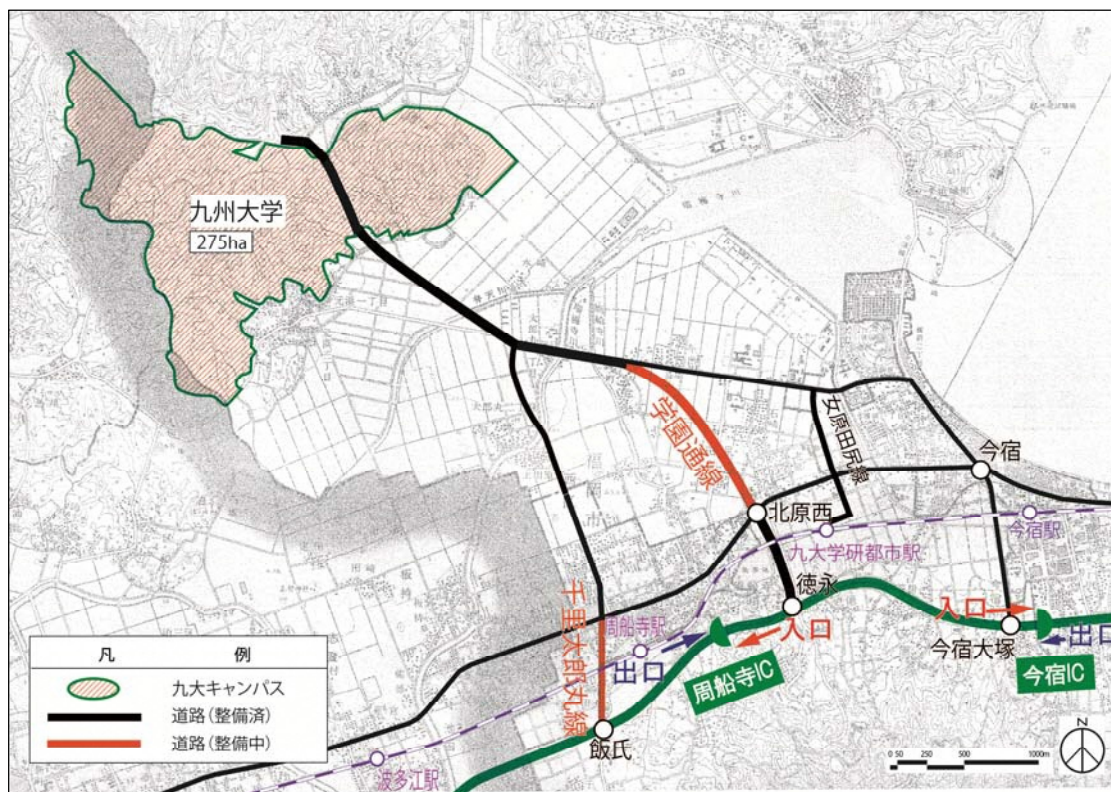
■ 今宿インターチェンジから出た車両の流動

H27 福岡市調査

## (2) 西九州自動車道と西部地域とのアクセス強化策

### 1) 幹線道路の整備

これまで西部地域では、学園通線や千里太郎丸線などの幹線道路の整備を進めてきた。今後、平成29年春には学園通線が全区間（4車線のうち一部2車線で供用）、平成30年春には千里太郎丸線（2車線）が完了予定となっており、供用に伴う自動車交通の分散によって、主要渋滞箇所である今宿交差点、今宿大塚交差点の渋滞緩和が期待される。



■ 幹線道路の整備状況

### 2) 西九州自動車の新たなインター設置の検討

#### ① インター設置の目的

幹線道路の整備により、主要渋滞箇所である今宿交差点、今宿大塚交差点における自動車交通の分散が見込まれる一方で、九州大学の移転などまちづくりの進展に伴い、今後、西部地域の交通需要の増加が予想される。

このため、将来の交通需要増加への対応及び西部地域における交通ネットワークの充実・強化を図るため、西向き周船寺インター（西方面からの出、西方面への入が可能なハーフインター）に加え、新たに東向きハーフインター（東方面からの出、東方面への入が可能なハーフインター）の設置について検討する。

## ②設置箇所の検討

構造的な制約や今宿インターとの間隔、九州大学とのアクセスなどを踏まえると、学園通線と国道202号バイパスが交差する徳永交差点付近への設置について検討を進めていく。



■新たなインターの設置検討箇所

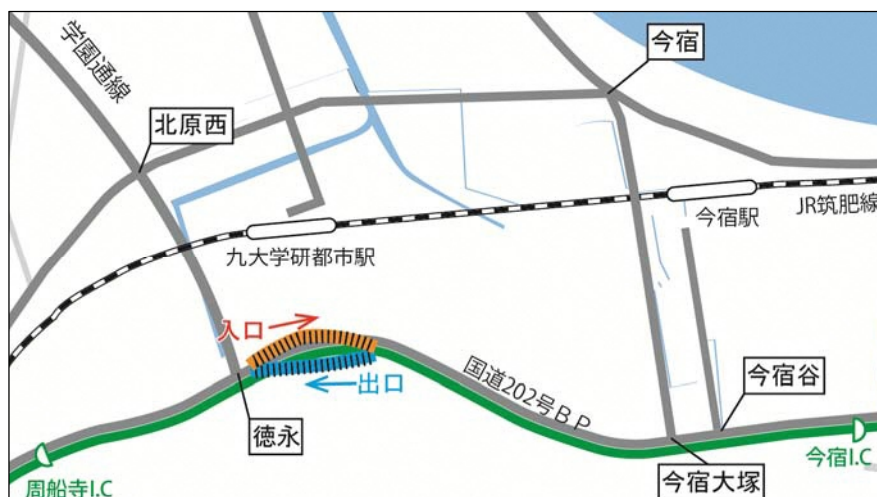
## 4. 今後の進め方

平成29年春の学園通線全区間供用後の交通状況の変化を見極めていくとともに、九州大学の移転（平成30年度完了）などまちづくりの進展を踏まえ、西九州自動車道への新たなインター設置などの交通対策について総合的に検討を進め、西部地域における交通ネットワークの充実・強化を図る。

なお、インター設置については、管理者である国や有料道路を管理運営している福岡県道路公社などの関係機関と連携しながら、事業の必要性・効果や事業費の試算などの検討を行っていく。

(参考) 国道 202 号バイパス又は学園通線に接続する場合のイメージ

a) 国道 202 号バイパス接続の場合



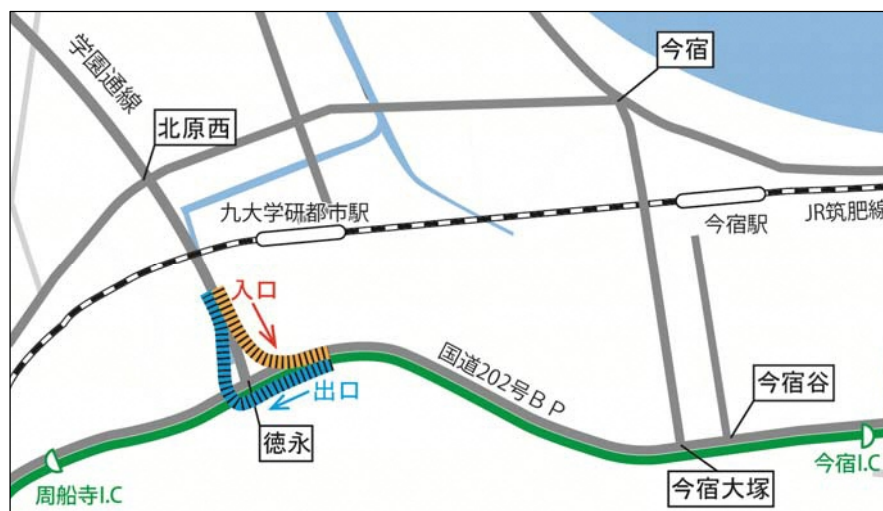
[効果]

- ・周船寺方面のアクセスに優れる。

[影響]

- ・九州大学方面とのアクセスについては、徳永交差点を経由する必要があるため、交差点の負荷が増加。

b) 学園通線接続の場合



[効果]

- ・九州大学方面のアクセスに優れる。

[影響]

- ・国道 202 号バイパスから直接アクセスできない。